

たいらSHOW! SEE! わたい!

A6 KISHO-MURI

3



DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

注意

この作品はR-18です。
未成年の購読、譲渡は固く断りします。
また本書の無断複製・複写・転売・
オークションやフリマアプリへの出品・
インターネットへのアップロードの
一切を禁じます。
上記に該当する場合、法的措置に訴えます。

This comic is for sale at
<http://injagoya.kakurezato.com/>.
If you found it for free on the internet,
it was uploaded illegally.
If you like my work, you can buy it here.
It would be a big help for me.



WARNING:

I wholly forbid the following acts concerning this book:

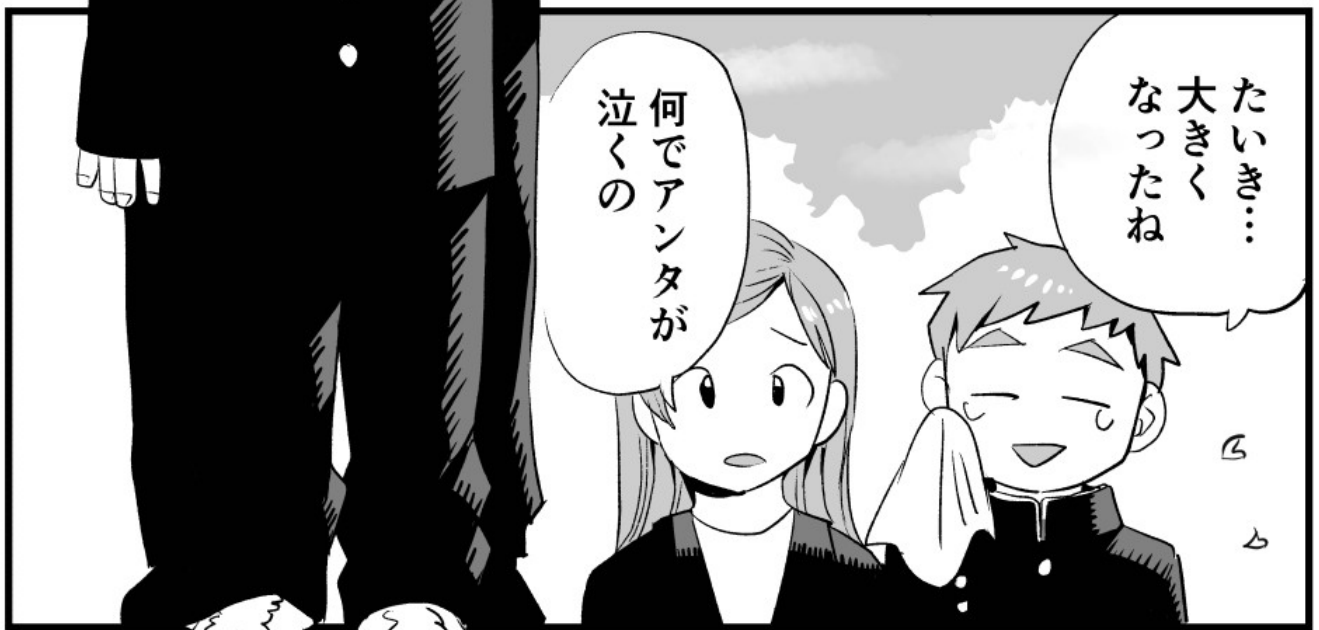
- Uploading on website or any other social media.
- Putting up for auction (such as Yahoo! auction, eBay).
- Resale

Thank you for your cooperation.



この作品はフィクションであり
妄想の産物なので現実と混同して
法に触れたり人に迷惑が
かからないようにしてください。
登場人物は全員成人です。
本書の責任はすべて無断転載主が負います

This work is fiction.



そして 2週間

遊びに
来ない!?

たいきが

こんなに
長い間遊びに
来ないなんて

ほぼ毎日
遊びに来てた
たいきが





おかしい：
あんなに懐いてた
たいき君が

ぼぼぼくに
何も言わずに
顔を見せない
なんてことが!?



もう二週間も
オナニーしてない
(自分でできない
と思っている)

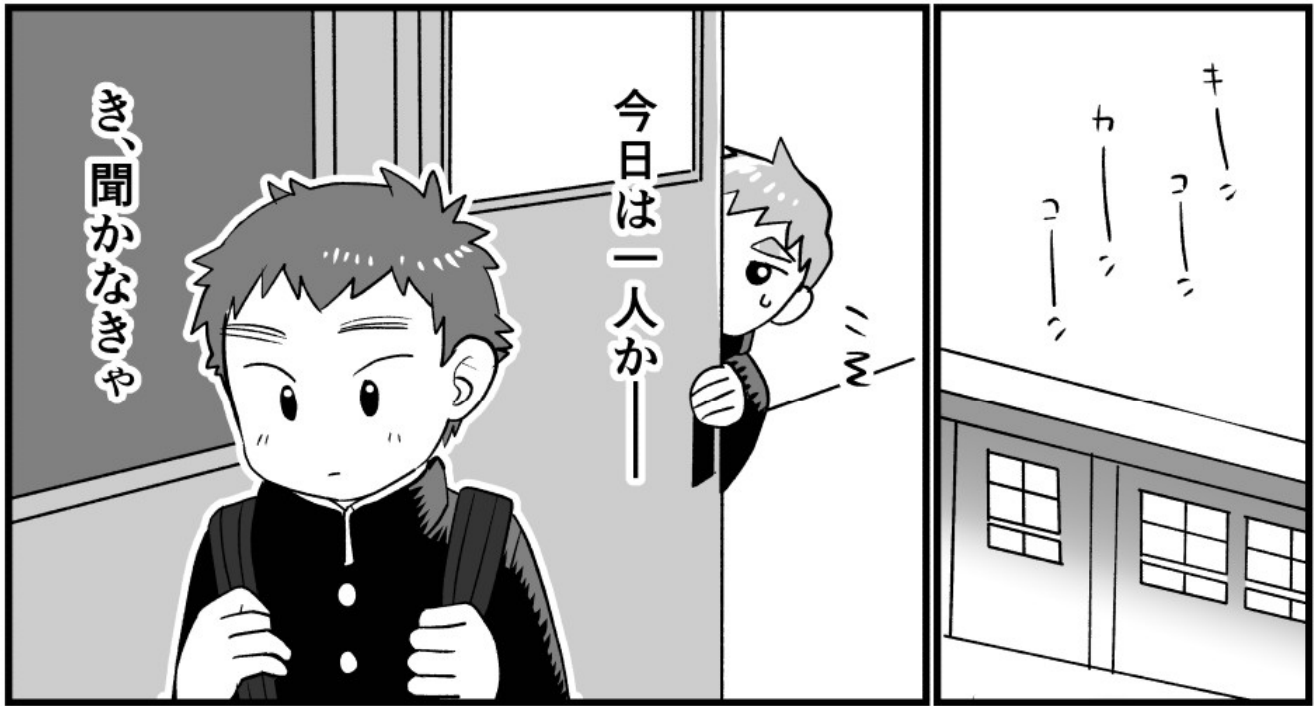
なんてことが!?

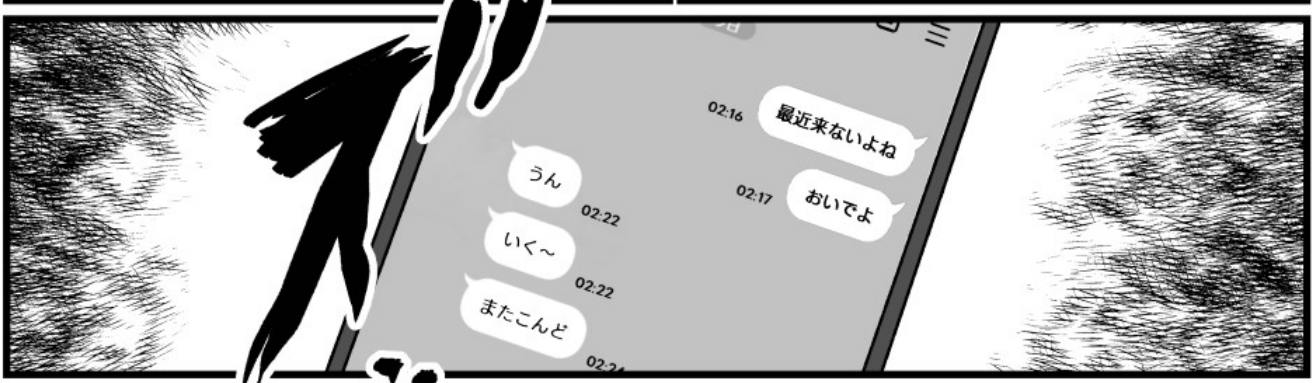
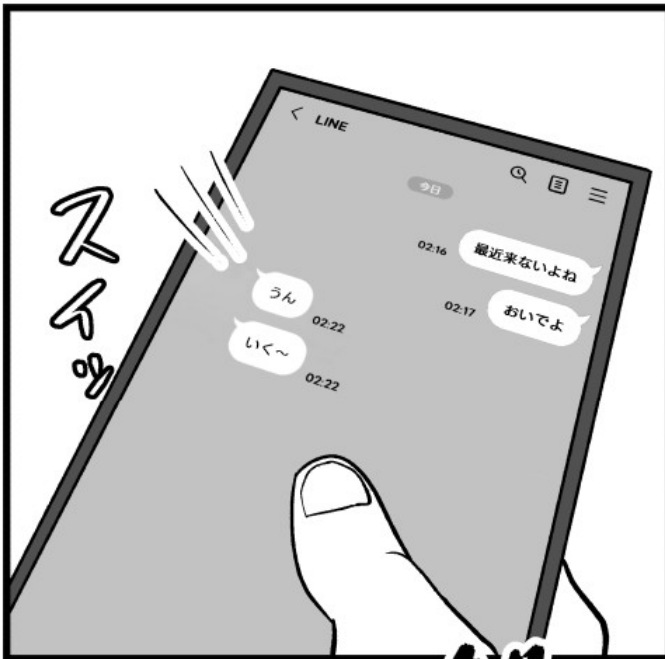


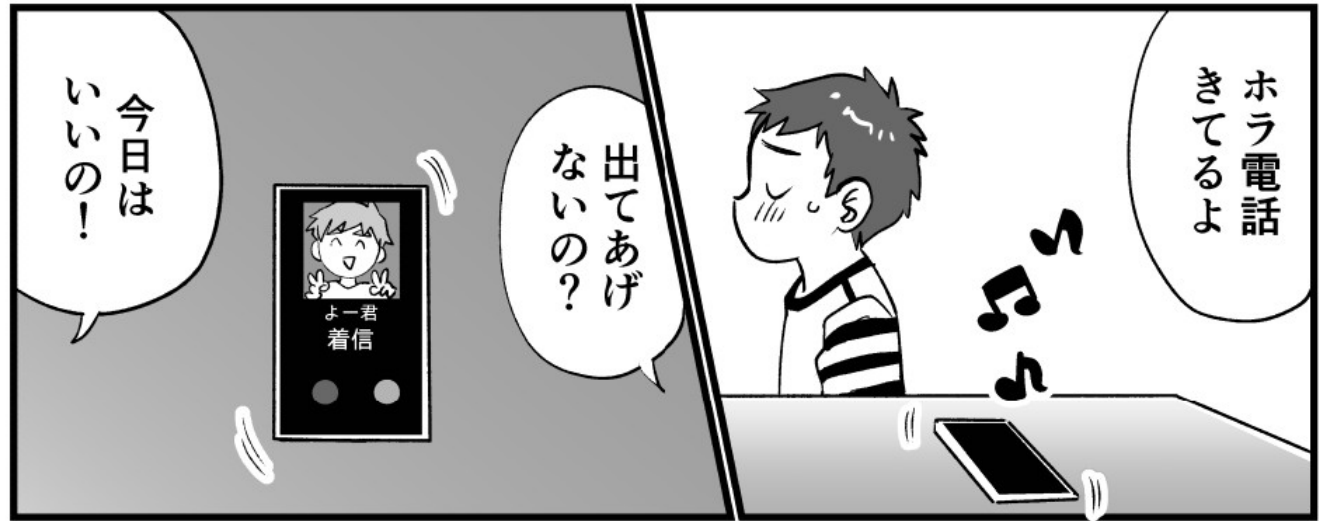
確かめるしか
ない：!!

学校で：
直接：!!

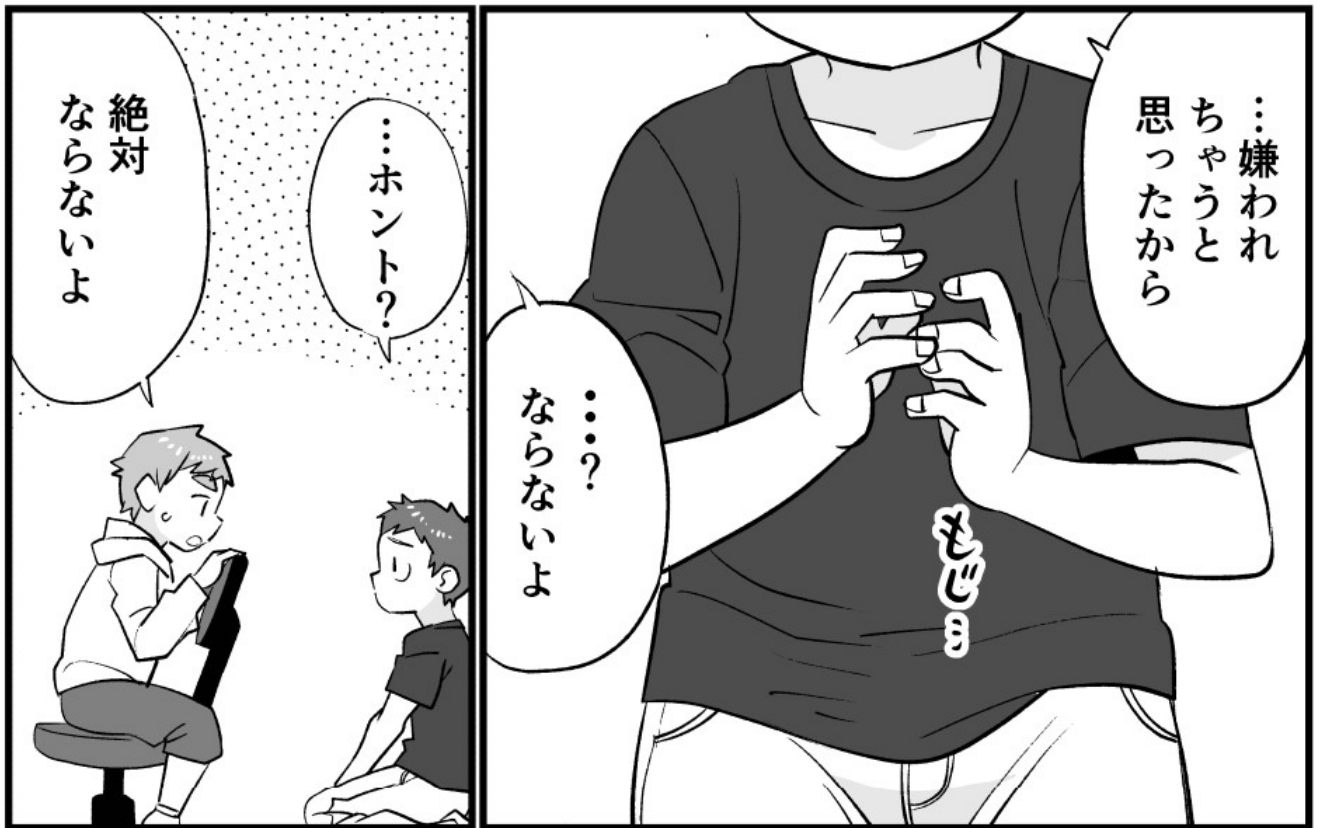
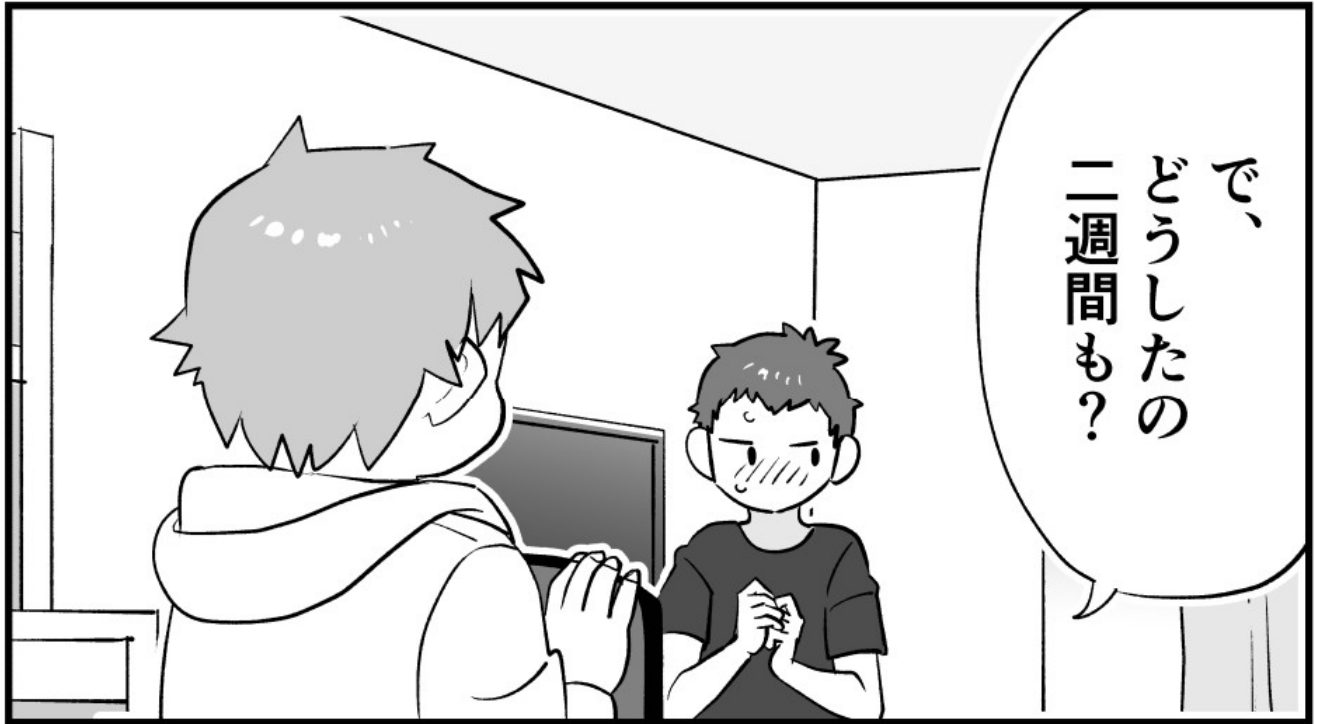


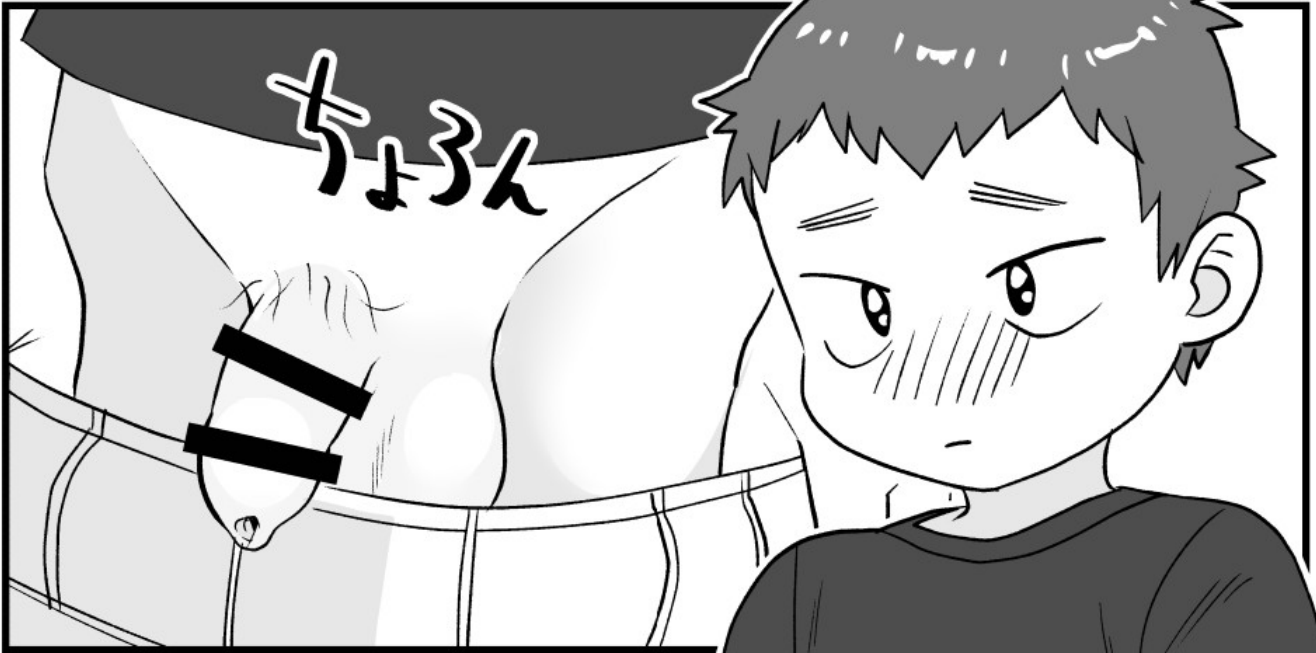














ぼくはね、

たいきが
大人じゃないから
好きなのわけ
じゃないよ

……

たいきが
大人になろうが
ぼくより
大きくなるうが

たいきの事
かわいく思って
いるからね

だから、
また遊びに
来てくれ
ないかな

これ
からもさ

でも、
よかった

ぼくも嫌われ
ちゃったのかと
怖かったんだ

干ガウ
干ガウ



…あのさ

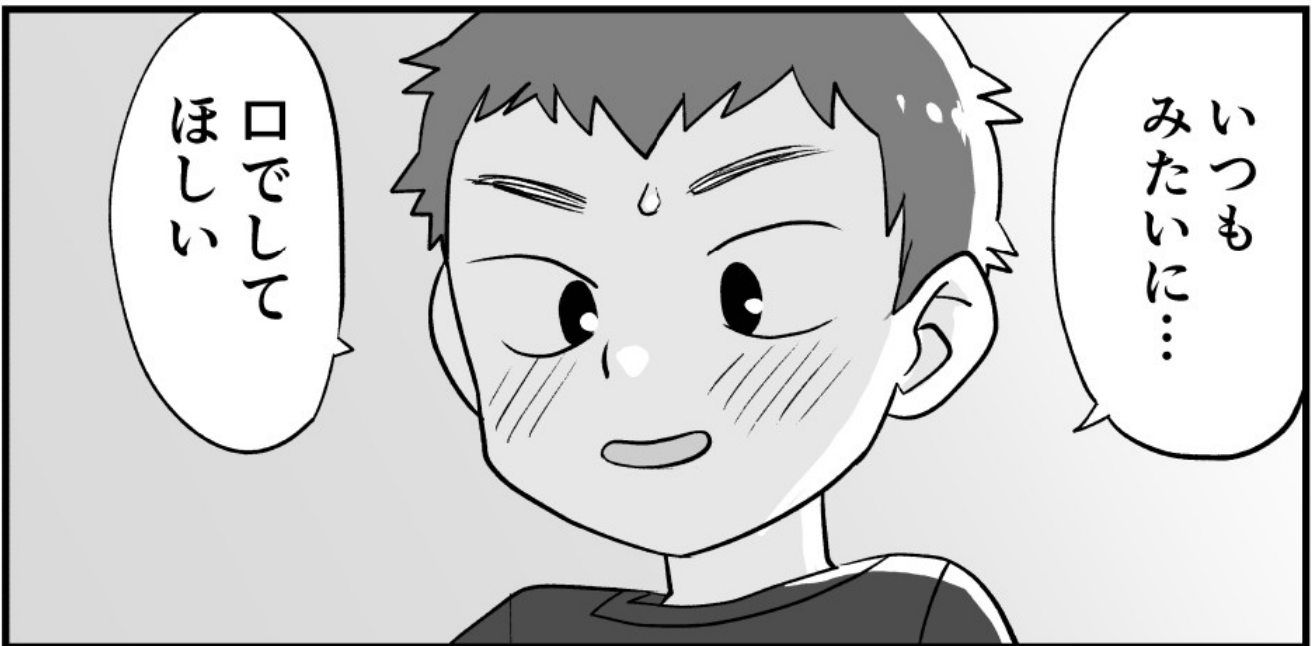
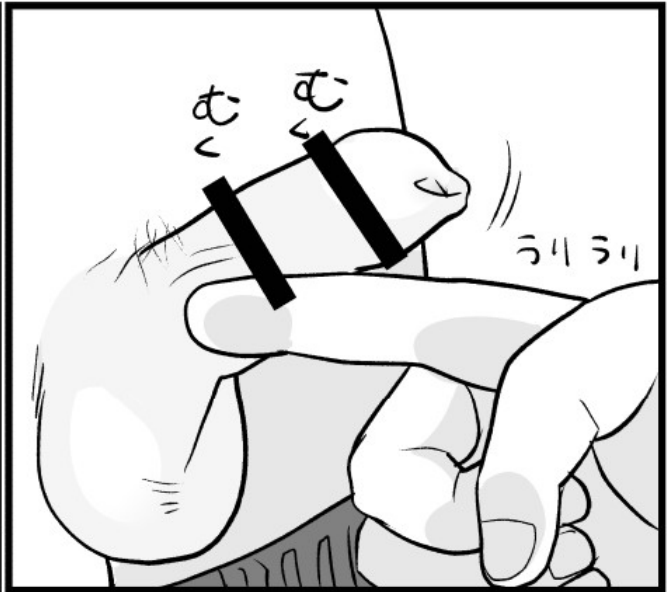
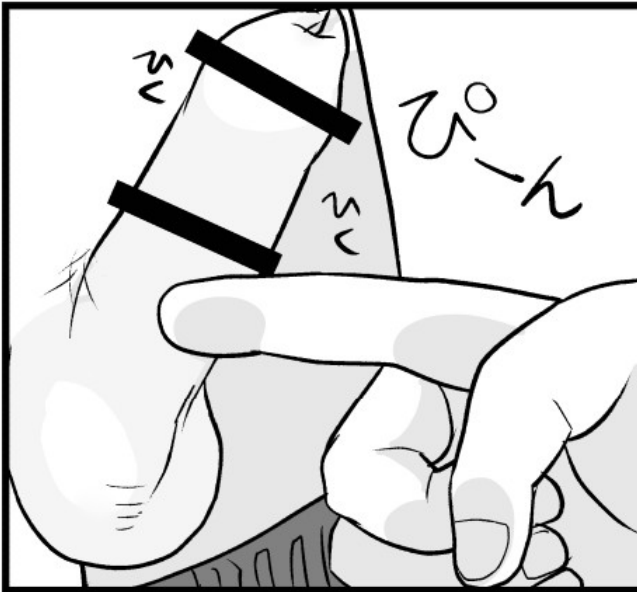
生えてるところ
ちやんと

見たい
なり







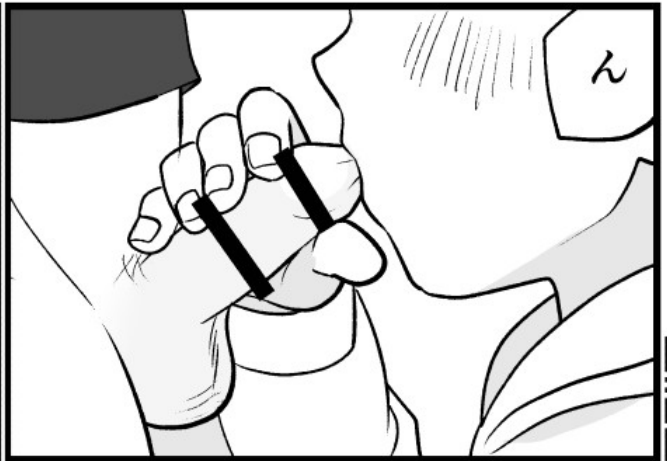
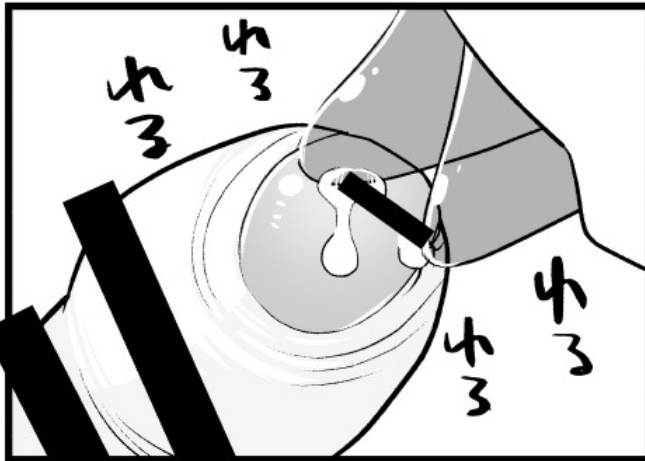




たいきは口で
じゅるじゅる
されるの
好きだもんね〜



あ、の…
もつと…
皮の先っぽ
のほう
舐めて…っ



ぐん…
ぐんぐん…

あ、あ



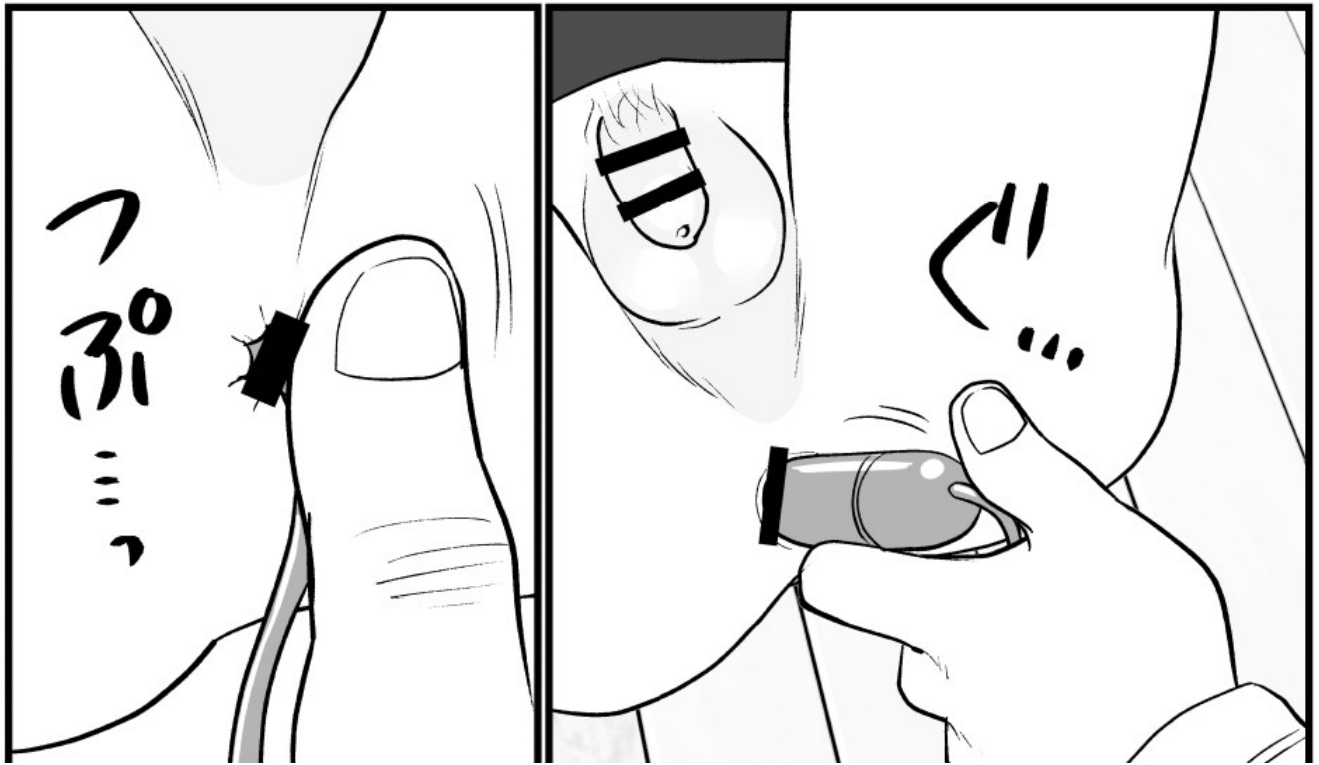
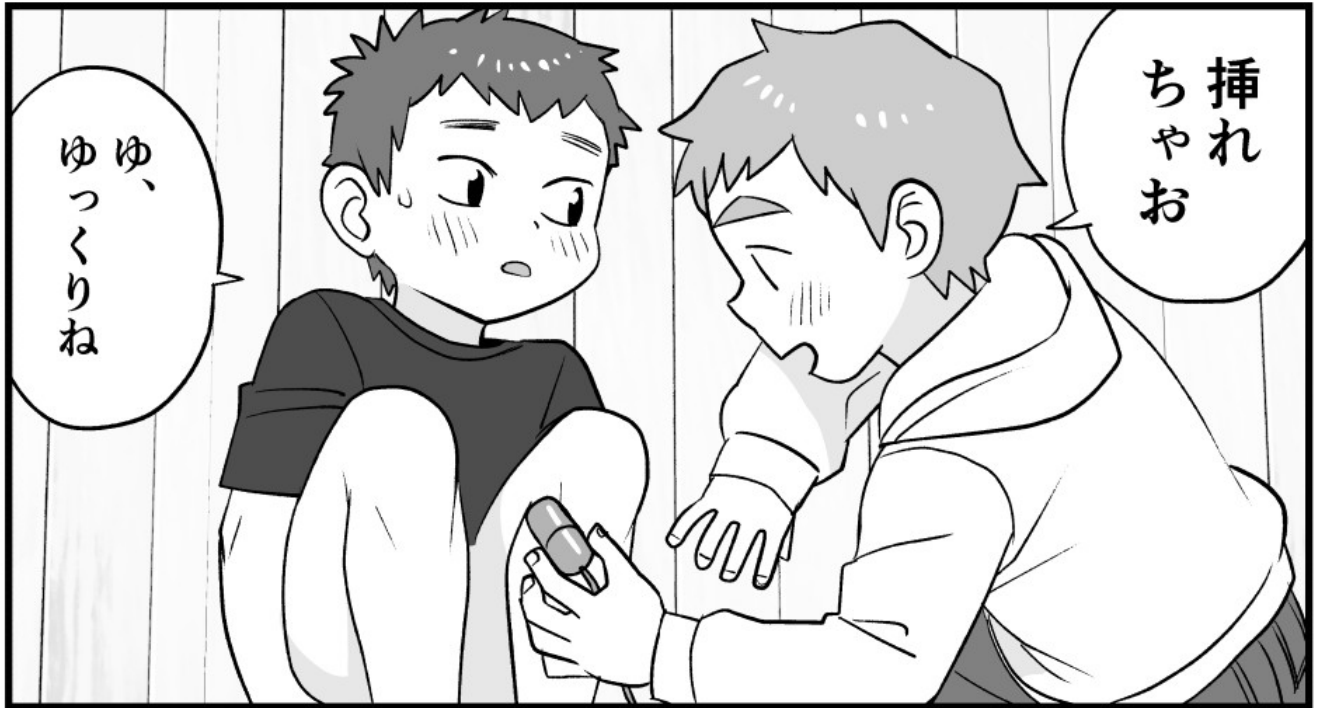


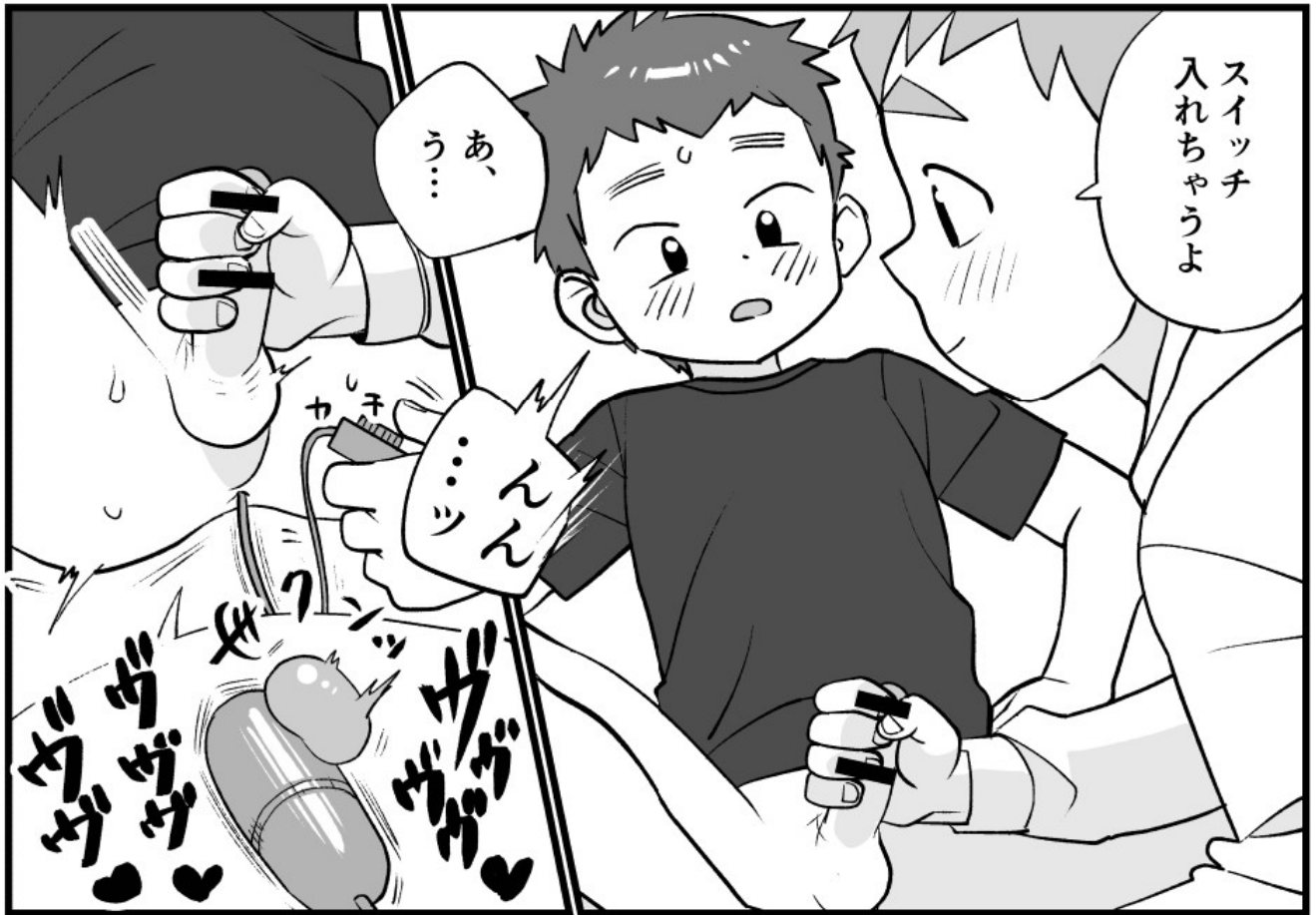
また、
して

お尻

クッ











ちんちんの
よー君の

ん
今日は
積極的
だなあ

3ん
3ん





たいき
イキそう

さっほこ
田ッッ

パンッ...

ゴッゴッ...

パンッ

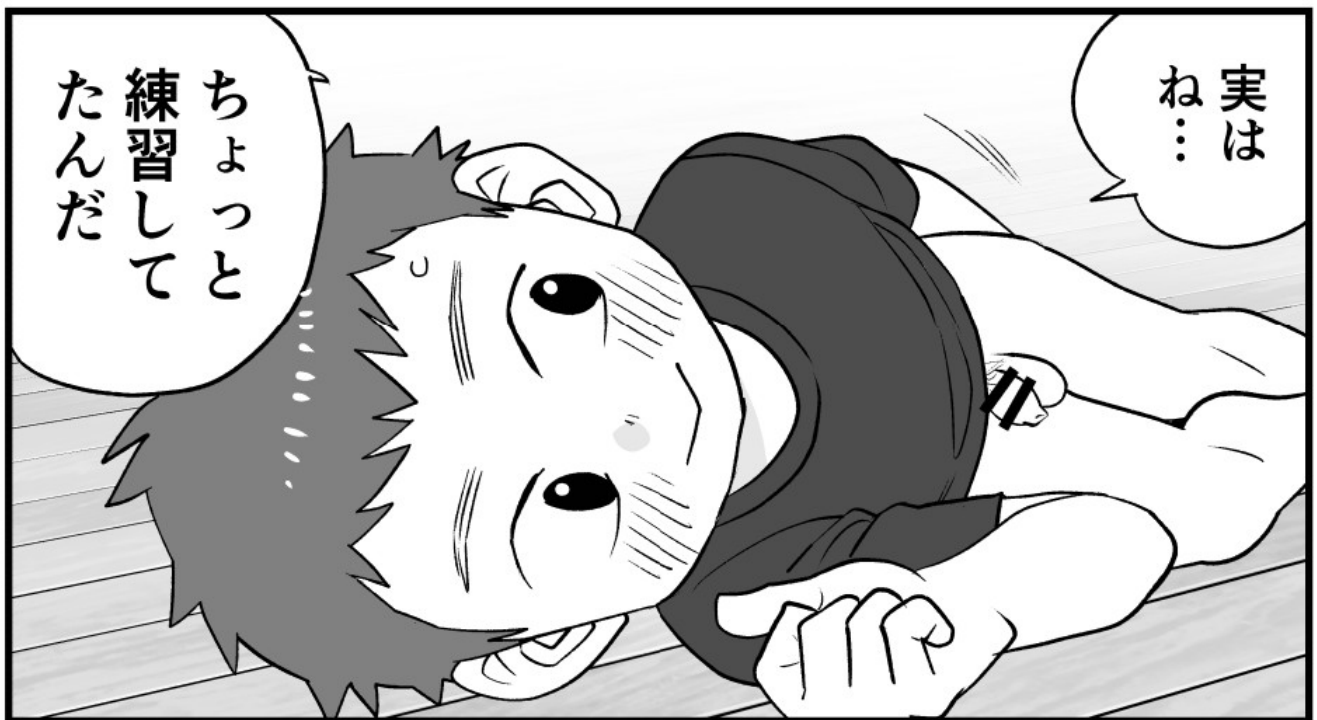
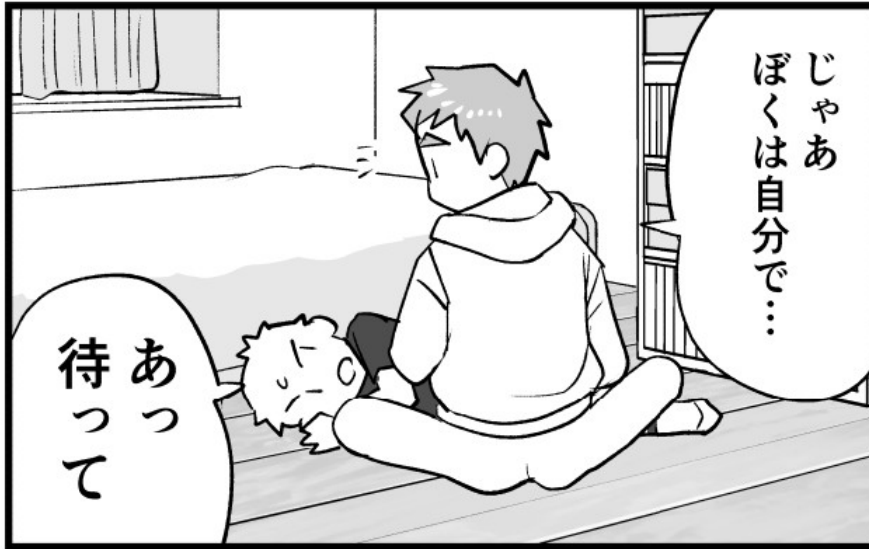
パンッ

ゴッゴッ

ゴッ

ゴッ





多分
入る

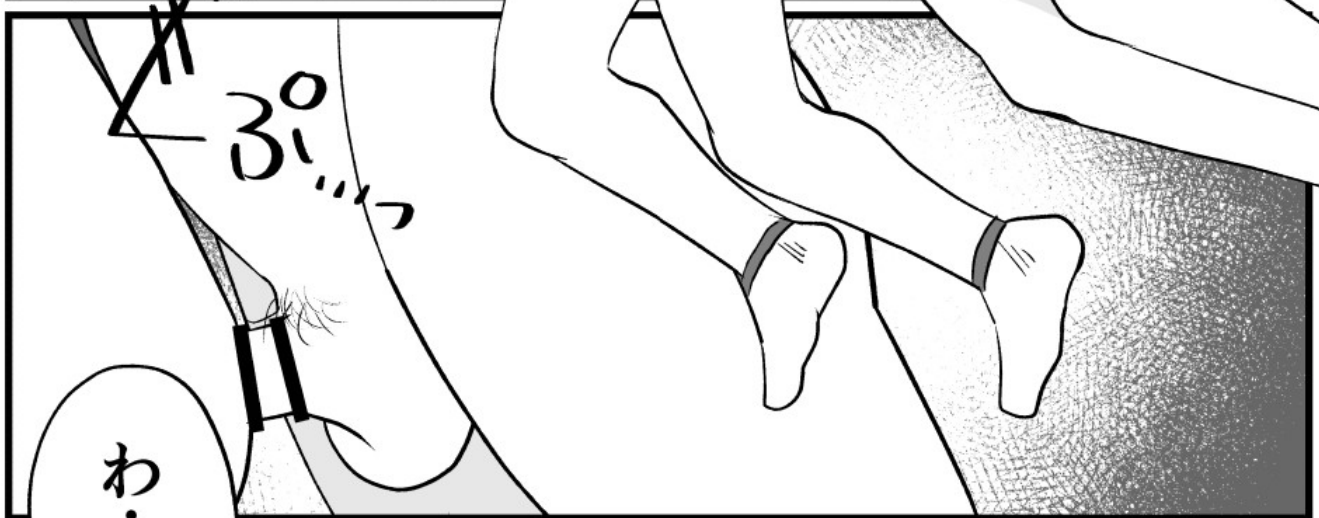
と
思う

ちんちん
入れて
いいよ

と
思う



挿れるよ...

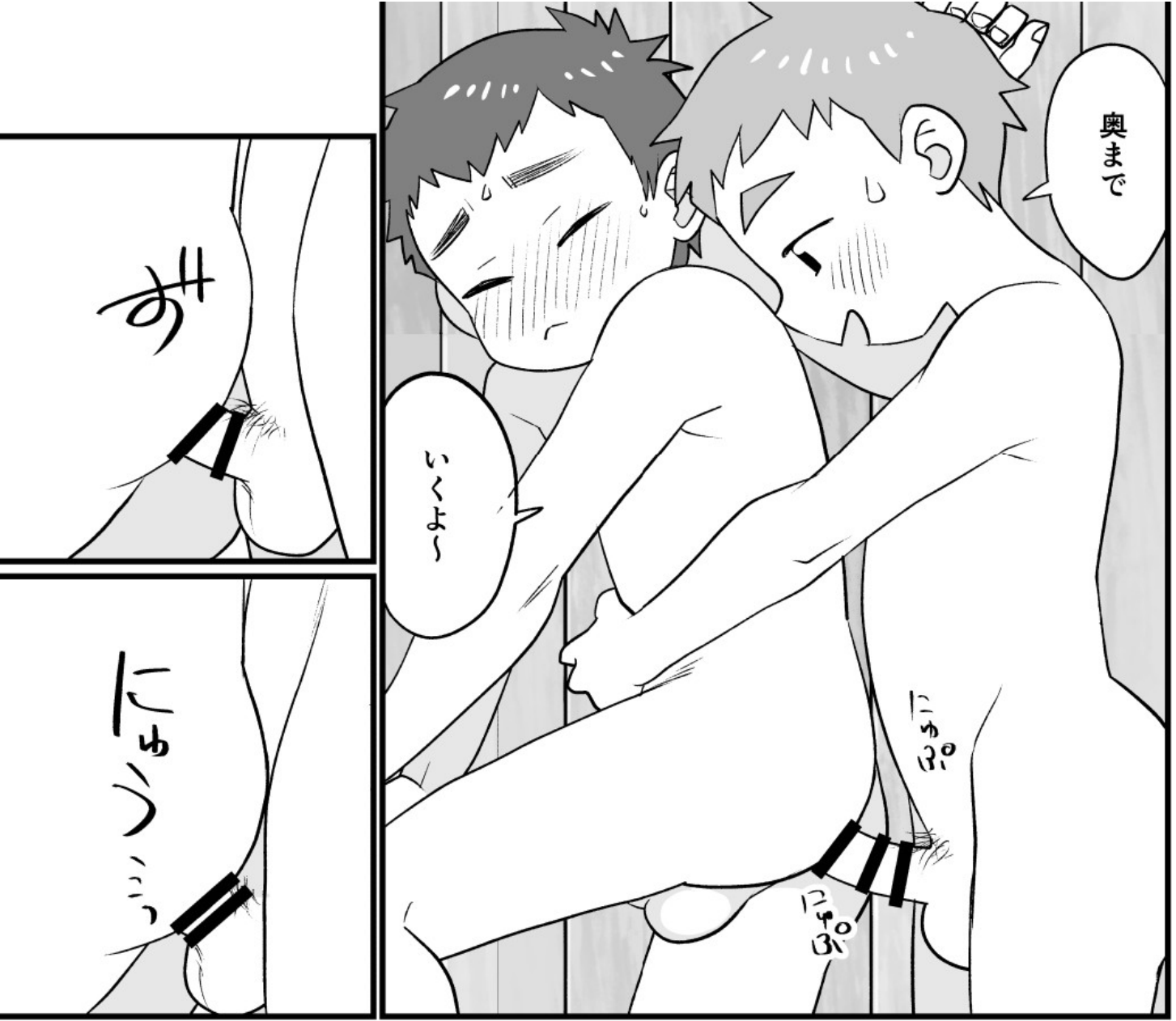


わ...



全部入り
そう...







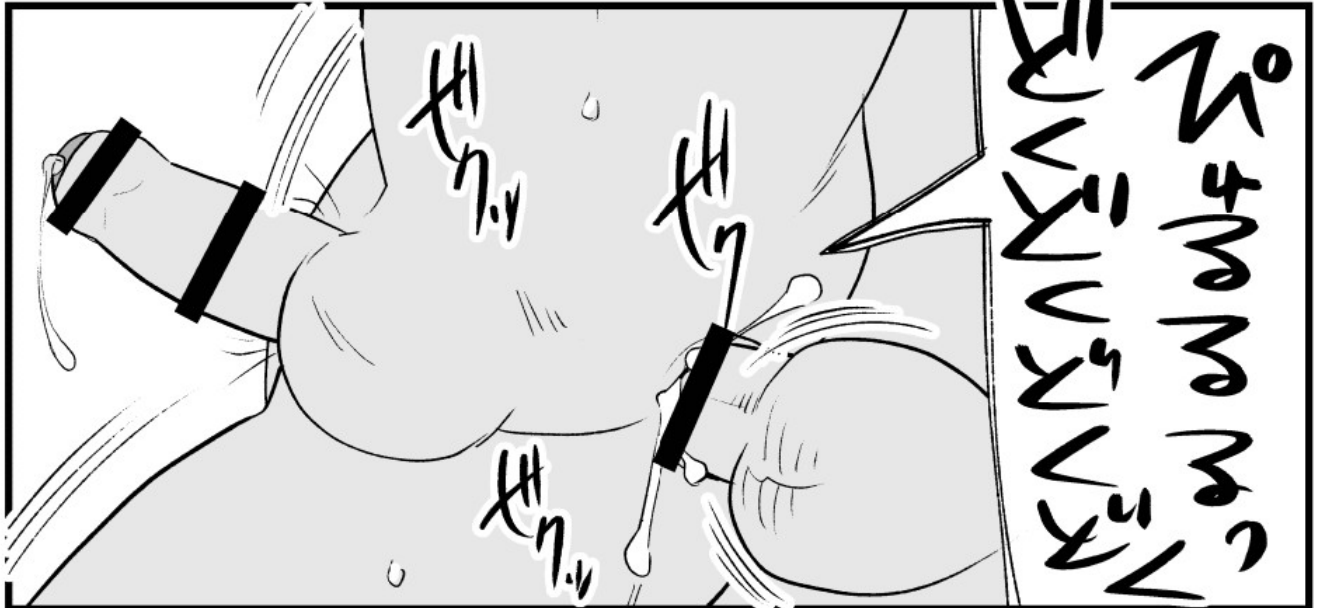
たいきつ
イキそう
イキそう

すっち
すっち

よー君
よー君

すっち
すっち
すっち

すっち
すっち
すっち



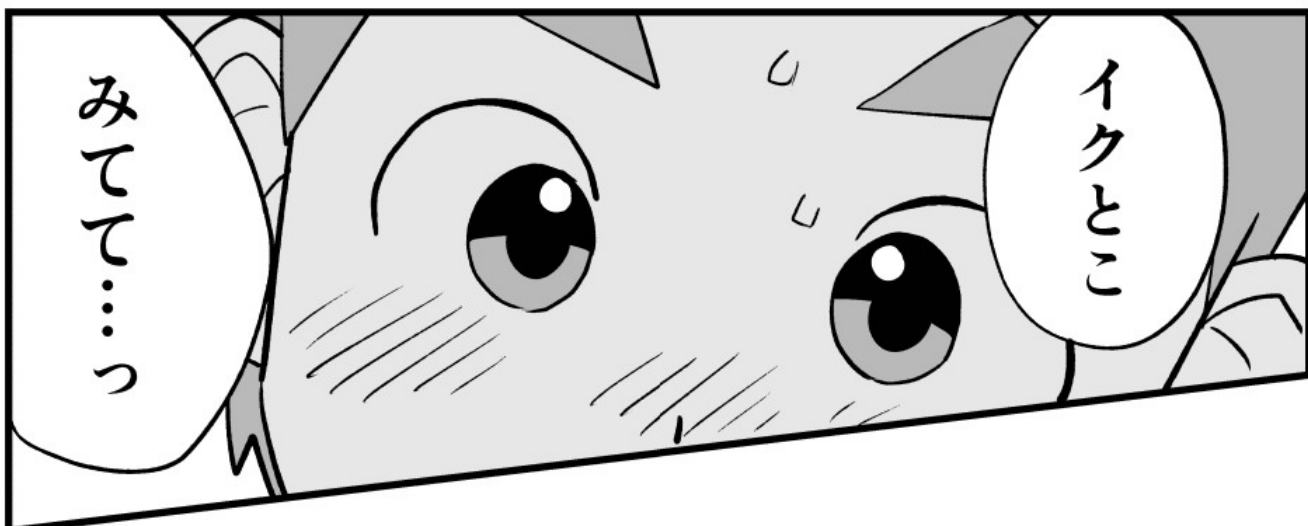
ぽんぽんぽん
びびびびびび

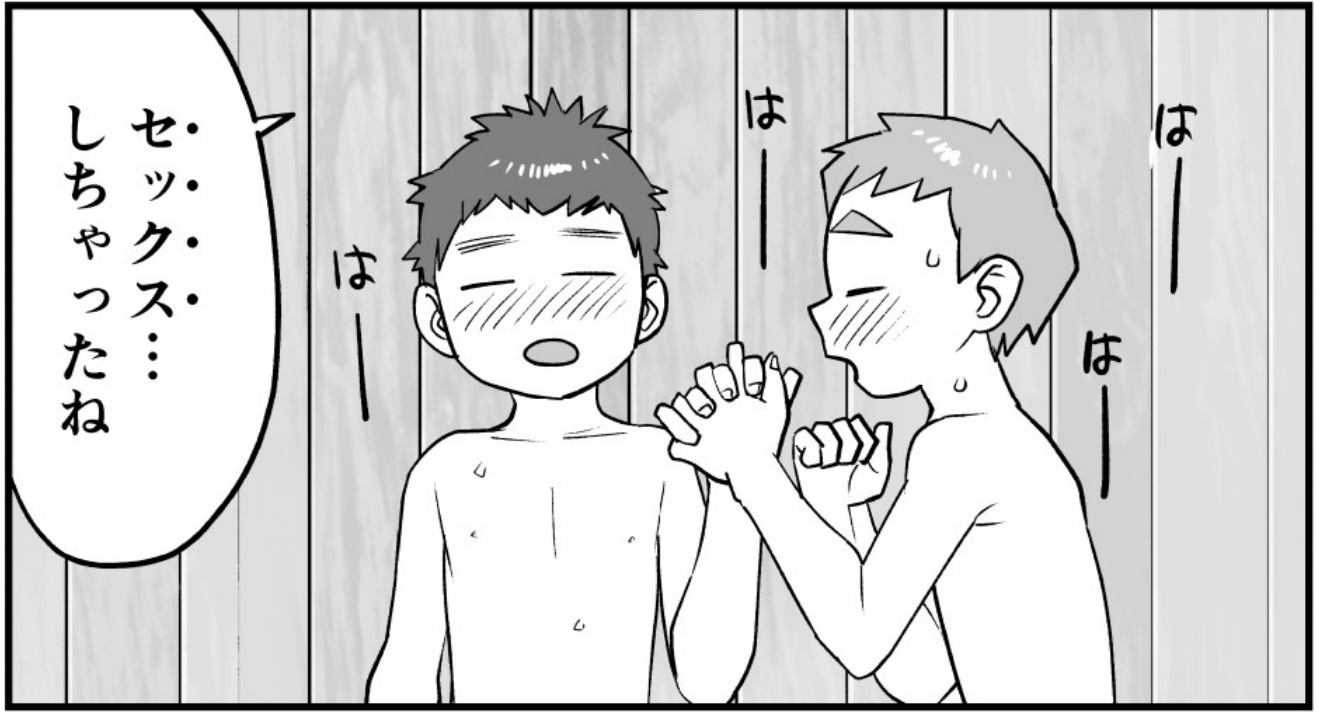
すっち

すっち

すっち







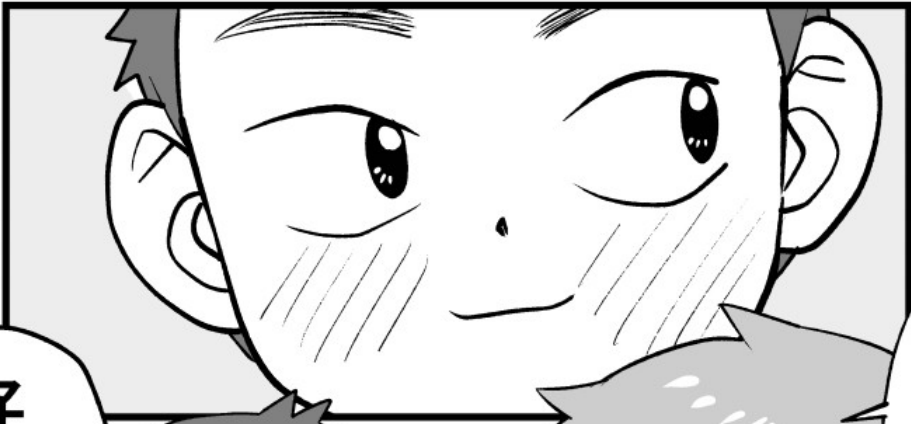
セックス
しちゃったね

はー

はー

はー

はー



好きだよ

よー君

ちゅ



あとがき

こんばんは(今は夜なので)、A禄(えーろく)です。
2年ぶりのたいいられたい!の続編です。

少しだけ成長したたいいき君と、よ一君。

ふたりのちょっとした葛藤と、関係性の変化、そして
スキンシップ(柔らかい言い方)の変化なんかを
描けていたらと思います。

ぶかぶかの制服はやっぱり可愛いですね。

今回はゲストにめそたね氏くるぶし氏くろわんこ氏
をお招きし、それぞれ「恥ずかしい」をテーマに
作品を描いていただきました。どれも最高なので
是非この後のページでお楽しみください。

ではまたお会いしましょう!
ご購入ありがとうございました!



Twitter(もといX)アカウントについて

度重なるアカウント凍結によってA禄どこだよ現象
が発生している件ですが、

ただいまX(@gorishimaGX)(10アカ目)

Misskey.design(@gorishimaEX)

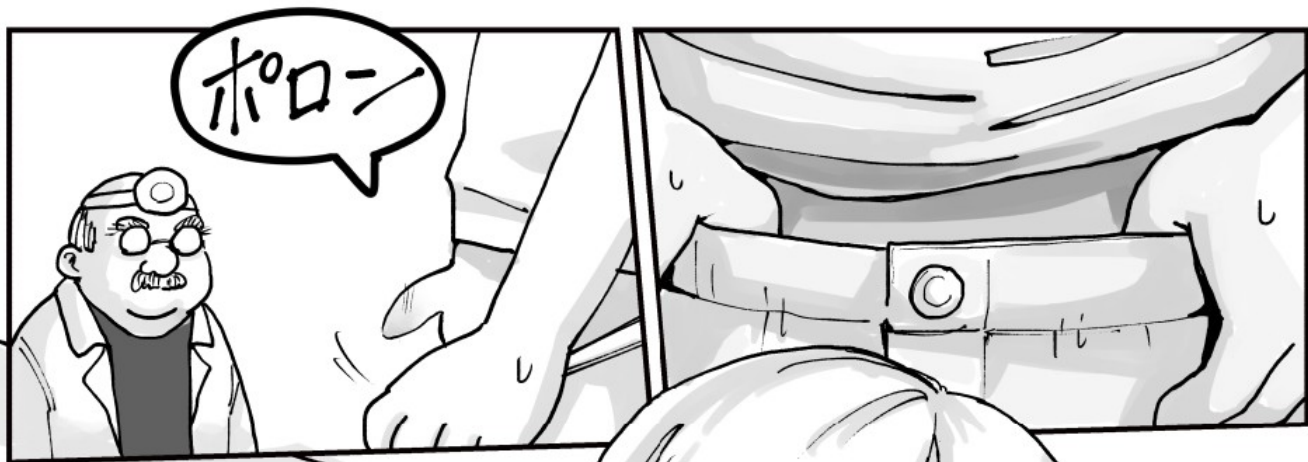
Pixiv(ID:188553)

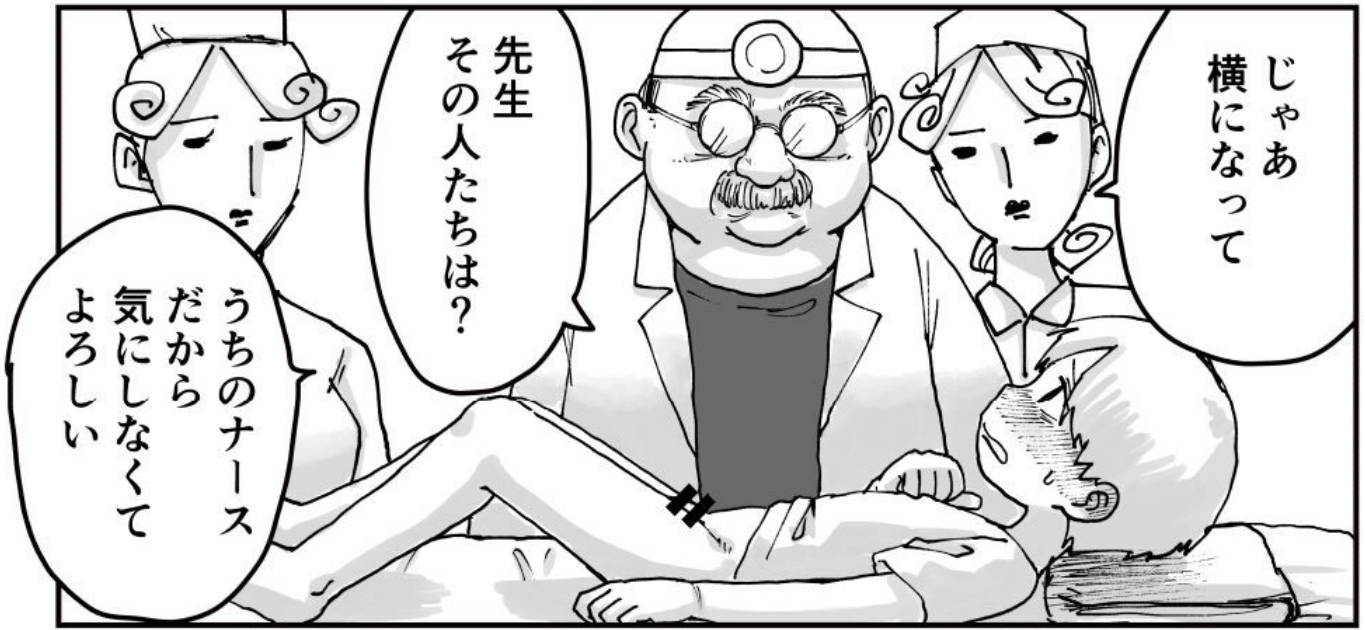
ホームページ(<http://injagoya.kakurezato.com/>)

のアカウントは現状生きてますので、

ご連絡はそちらでお願いします。









うーむ

● REC



修正ノリのせいで
よくわからないな

完



芽生え

くろわんこ

五時間目の授業が終わり、体育でプールを堪能したばかりの六年生男子児童四十一名（一組二十名、二組二十一名）は、全員まとめて二組の教室で着替えをしていた。

水泳の授業が終わった後は、空気が少し不思議な感じになる。体に染み付いた塩素の臭いと、夏の午後のぬるい熱さが、窓から吹き抜ける風によって混ぜられた空気。

この中にいるとゆったりとしていて、それでいてワクワクするような非日常的な気持ちにもなる。こういう時、人は思いもよらない事をするのかもしれない。

などと考えていると、まさに思いもよらないセリフが耳に入ってきた。

「おれ、まだチンコに毛え生えとらんけえ。証明するわ」

突然の宣言に、周囲の視線が集まる。見ると、一組の小柄な男子が首から下に被ったタオルをガバツと広げたところだった。

水着はすでに脱いであり、ちんちん丸見えだ。本人の宣言通り、毛の一本も生えていない。それどころか、大きさはぼくの小指程度しかなく、何なら低学年と比較してもさほど変わらないんじゃないかと思う見ただ目であった。去年、保健の授業で生殖について習ったけども、そういう事と一切無縁であろうことは、想像に難くなかった。

アホくさ。たまたま目にしてしまったが、そんなもの他人に見せるよなものでもないだろうに。

「ちっせー！」「マジで毛え生えてない。つるつるじゃー！」

騒ぐ連中から目を離し、ぼくは着替えを再開しようとした。

「なあなあ、木野」

しかし、友達の島本に肩を叩かれて、今度はそっちを向くことになった。

島本は家が隣でクラスも六年間一緒という、長くて深い付き合いの友達だ。女子が好きな言葉を使えば「親友」と言えるのかもしれない。

しかし、付き合いが長くても四六時中一緒にいるわけじゃない。着替えの最中に話しかけてくるなんて珍しかった。

手首で「こっちに來い」というハンドサインを送るものだから顔を寄せると、両手を筒のようにしてぼくの耳に当て、ひそひそと話し出した。「オレさ、実はちょっと生えてきたんよ」

……生えてきたって、何が？

「見る？」

……見るって、何を？

予想外の言葉にぼくの脳はすっかりフリーズしてしまって、返事もできずに島本の顔を見るだけだった。それをイエスの返答ととらえたのかは知らないけれど、島本はぼくの手首を掴んで教室の隅まで引っ張った。そのまま押し込むように角っこに立たされ、逃げ場もなくなってしまう。壁際に追い込まれたその様子は、誰かに見られればイジメの現行犯として報告されかねなかったかもしれない。しかしながら、幸い——と言うべきなのは分からないけど——ほかのみんなの視線はさっきの男子に釘付けだった。

「……じゃあ、見せるけえな」

そう言うと島本は、体に巻いたタオルのボタンを外して、その中身がぼくにだけ見えるようにした。

鎖骨が、薄い胸板が、乳首が、おへそが、腰の日焼け跡が、順番にぼ



くの目へと飛び込んでくる。そして、ぼくの視線が止まった先には、島本のちんちんがあった。

ぼくのよりも太い、というのが第一印象だった。

だいたい親指ほどの太さで、長さは人差し指くらい。先の方は段差のようなものがあってちょっと膨らんでいる感じ。垂れ下がりがきつてはならず、棒のような固さを持っているのが分かった。色も少し黒っぽくもなっていて、全体的に大人のちんちんに近かった。

それを何よりも表していたのは、ちんちんの付け根から少し上あたりを生えていた毛だった。くしゃつとしたクセのついた毛が十本程度でまとまっている。父さんのお風呂で見たようにびっしり生えているというわけではなかったが、それがかえってぼくの中の何かを刺激した。

「なあ、木野」

ぼくはどれくらい時間が経ったか分からないほど集中して島本のちんちんを凝視していた。声をかけられて、あわてて顔を上げる。

「何？」

「木野も、ちんこ見せて」

一瞬、意味が分からなかった。ぼくが、ちんこを、見せる？

どういふ事を頼まれたのか脳が処理できると、ぼくの頭はポツと熱くなった。

「そ、そんなん……」

「オレ見せたじゃん。ダメ？」

確かに島本は見せたのに不公平だ、いやいや島本が勝手に見せただけだし、いやいやいやいやそもそもちんちん見せるって何だよ——

もう頭の中がぐちゃぐちゃだ。島本の顔を見ると、ほっぺたが真っ赤だった。何でかは分からない。ただ、ぼくも島本も自分自身がかつてな

いほど熱くなっているのを感じていたと思う。

いいよ、とは言わなかった。ただ自分の体を覆うタオルのボタンを外し、そっと開いただけだった。

「ちよつと勃つとる」

島本がポソツとつぶやく。言葉の意味は知らなかったが、何だかそれがとても恥ずかしい事であるような気がした。

改めて自分のを見てみると、島本のちんちんとはずいぶん違っていた。細いし、短いし、周囲の肌と変わらない白っぽい色で、先っぽもすぼまっている。

ただ、内側に一本の芯があるように見えるのだけは同じだった。

島本は少し鼻息を強めながら、じいっとぼくのちんちんを見つめている。そんな島本を見ていると、ぼくもまたドキドキしてきた。

頭がボーっとして、胸がドキドキして、ちんちんがギューツとして

——自分がかつていなくなってしまっただけそうだった。

そんな永遠にも感じられた時間は、島本がぼくのタオルを閉じたことで突然の終わりを告げた。

島本はへへっ、と困りごとをごまかすような顔で笑っていた。

「けっこう、恥ずかしいもんじゃね」

そう言って、教室の反対側の方へ行ってしまう島本。その耳が赤みを帯びていたことは、はっきりと見て取れた。

自分の胸に手を置くと、まだ心臓がバクバクしている。どうしようもなく切なくなると、タオルの上からちんちんをぎゅうっと握った。

気が付くと、一組の男子ももう騒ぎ終わって普通に着替えていた。教室の様子は元通り。島本との出来事はきつと、夏だけが作り出せるこの空気のせいだったんだ。そうに、違いなのだ。



2023/10/9ショタフェス14

発行者：A禄(同人サークル 起床無理)

印刷所：株式会社 栄光

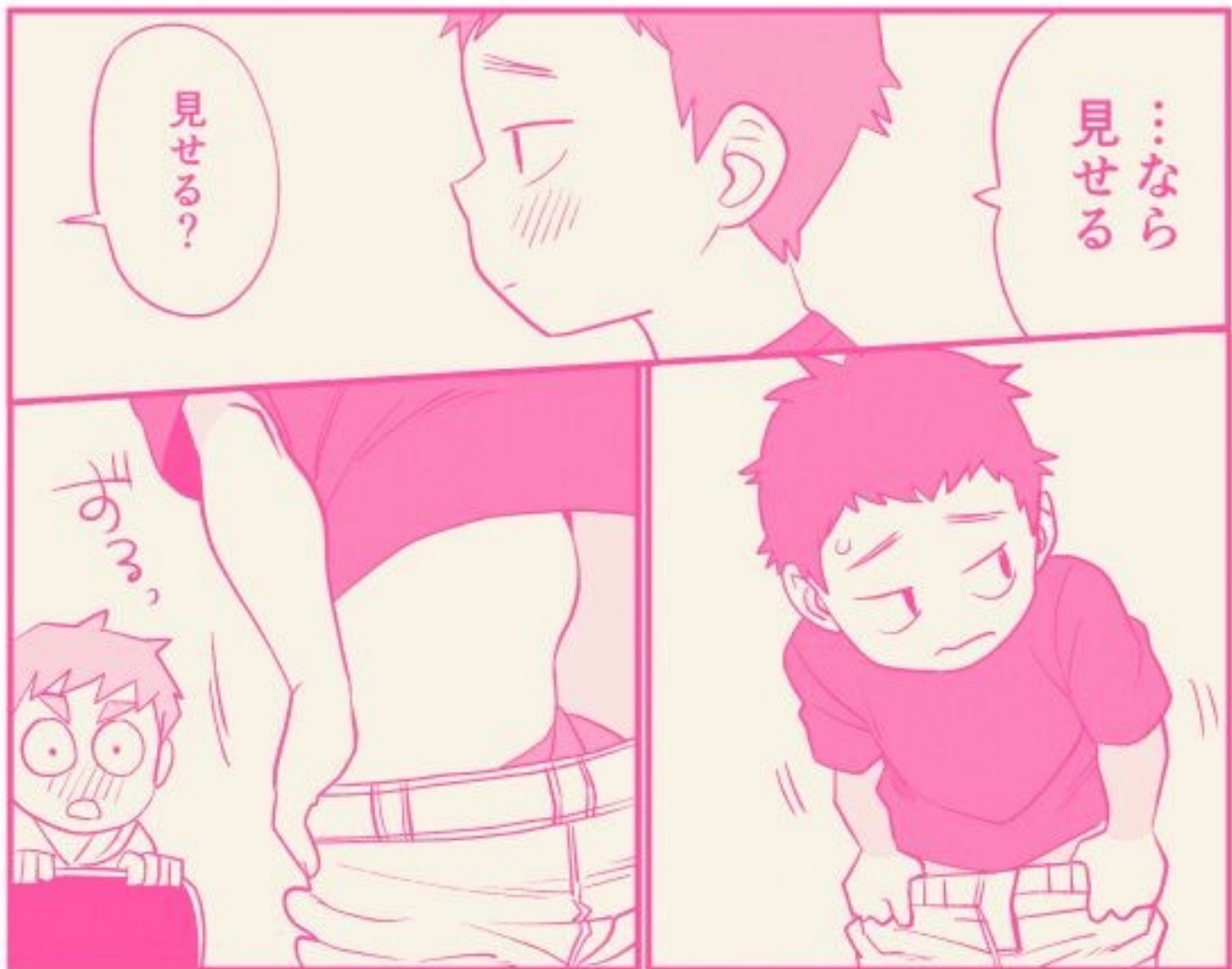
連絡先：a.six.is.gorishima@gmail.com

Pixiv：188553 Misskey:gorishimaEX

HP:injagoya.
kakurezato.com/



たいらわたい!3



新学期！同じ学び舎に喜ぶ陽太郎と、なぜか元気のない大輝。二週間余り姿を見せなきたいきに、寂しさと焦燥を募らせる陽太郎だが――

豪華ゲスト



くろわんこ:2P

「……見ろって、何を？」



めそたね:4P



くるぶし:2P



HP:injagoya.
kakurezato.com

サークル 起床無理 2023 10/9